

- ・伊達市財政計画（令和4年度～令和9年度）や伊達市行財政改革指針（第4次）に基づき、中長期的な視点に立った健全な財政運営を実施
- ・今までの取り組みをより一層推し進め、将来の伊達市を支える健全で柔軟な財政構造へと変革が必要で、計画期間において取り組んでいく具体的内容等を記載した財政構造改革プログラムとして策定

財政構造改革プログラムの基本方針

- (1) 歳入に見合った収支均衡型の財政構造へ
 - ・財政調整基金の取崩し額を圧縮していき、令和9年度までの3年間を通して歳入に見合った収支均衡型の財政構造へ変革
- (2) 重点推進分野への財源の重点的・優先的配分の徹底
 - ・限られた財源をこれまで以上に効果的・効率的に活用していくため、すべての事業について聖域なく見直しを実施

財政構造改革プログラム期間

- ・令和6年度から取組みを開始して、令和7年度当初予算編成から令和9年度予算までの3年間を集中改革期間として設定

適正な予算規模

- ・歳入に見合った歳出構造を考慮、また財政調整基金の積み増し等を考慮すると、290億円程度が適正な予算規模と設定

歳入歳出の見直しの視点

- (1) 歳出の見直し視点
 - ・簡素で効率的な財政運営を行っていく観点から、歳出全般について聖域なく見直しを行い、本市の歳出構造をスリムで機能的かつ弾力性のあるものとする。
- (2) 歳入の見直し視点
 - ・市民負担の公平性の観点から受益者負担の在り方の見直すとともに、自主的・自立的な行財政運営を展開するための財政基盤を強化する観点からも、自主財源確保に向けた取組みを推進

財源の重点的・優先的配分の考え方

- ・「第3次総合計画」及び「第3期伊達な地域創生戦略」で特に推進していくべき事業、喫緊の課題となっている分野に対応する事業に対して、重点的・優先的に予算配分

予算要求・編成方式の見直し

- (1) 予算要求・編成方式の見直し
 - ・あらゆる歳出分野において聖域なく改革を行うとの観点から、すべての事務事業をゼロベースで見直すため「一件査定方式」を採用
- (2) 各課等ヒアリングによる事業内容精査の実施
 - ・当初予算編成期間だけでは抜本的対応を必要とする分野、施策の検討を行う時間が十分でないことから、年度当初から議論を実施
- (3) 行政評価システムの活用などPDCAサイクルの徹底
 - ・PDCAサイクルの考え方を予算に反映しながら、徹底したスクラップにより新たな施策を展開

歳出見直しの具体的方策

- ・すべての経費について、歳出見直しの視点を踏まえ、さらに必要性、緊急性、効率性などの観点から9つの視点で具体的対策を実施
 - (1) 総人件費の抑制
 - (2) 内部管理経費削減の徹底
 - (3) 事務事業の見直し
 - (4) 補助金及び交付金の見直し
 - (5) 投資的経費の規模の抑制
 - (6) 業務改革による人的・財政的負担軽減
 - (7) 伊達市公共施設等総合管理計画との連動
 - (8) 公社の経営統合による財政的負担の適正化
 - (9) 公債費圧縮と平準化

歳入確保の具体的方策

- ・自主財源確保等を踏まえた歳入確保方策を実施
 - (1) 市税等収入の確保
 - (2) 使用料・手数料等受益者負担適正化の推進
 - (3) 未利用財産の活用
 - (4) その他の収入の確保

プログラムの推進体制

- ・取組状況等について、市民にわかりやすい具体的な形で、積極的に公表
- ・財政シミュレーションにより、年度毎の進捗管理を実施するとともに、プログラム終了後もプログラム精神を遵守し、不断の見直しを実施